

音楽の深層を知り、音楽家の本音を聞く

Monthly
September
2016
No.9

9

ONGAKU NO TOMO

音楽の友

音楽之友社創立75周年
75th
Anniversary

本誌執筆陣による取材記事と
読み応えのある強力連載の数々

連載

山田和樹 私的音楽論考——指揮台から見えること

小山実稚恵 対談シリーズ「脱力の極み」

〈お客様〉**小林寛道** (東京大学名誉教授)

舘野 泉 80歳の屋根裏部屋

池辺晋一郎 メンデルスゾーンの音符たち

堀内 修 読むオペラ——聴く前に、聴いた後で

平野 昭 名曲タイムトラベル～真の鑑賞術

巻頭カラー

[Interview]

来年デビュー30周年を迎える

仲道郁代

15年ぶりにスタジオ録音を行った

チョン・キョンファ

古楽とモダンの“二刀流”!

ヴィクトリア・ムローヴァ

MMCJにかける想い

大友直人&アラン・ギルバート

[Report]

徳永二男 楽壇生活50周年記念演奏会

告知

参加者募集! 本誌創刊75周年記念イベント

「菊池洋子 トーク&ライブ」

特別記事

世界の主要歌劇場・オーケストラ

「2016/17シーズン・プログラム」

Ikuyo Nakamichi

特集II

来日演奏家速報2017

特集I

追悼 中村絃子



別冊付録

国内の演奏会&チケット情報満載!

コンサート・ガイド

特別
特記

Interview フランスのウィングザヴィエ・ロト

ロトが語る、理想の音楽の創り方

取材・文＝山田真一

Text＝Shinichi Yamada

写真＝竹原伸治

Photo＝Shinji Takehara

2012年の南西ドイツ放送響この来日で日本でも注目を集めたロトは、この一年半ほどの間に、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、この4月には東京都交響楽団と相次いで日本のオーケストラに登場した。今注目のマエストロに、日本のオーケストラとの共演のことや、自身が主催するオーケストラ「レ・シエクル」について伺った。

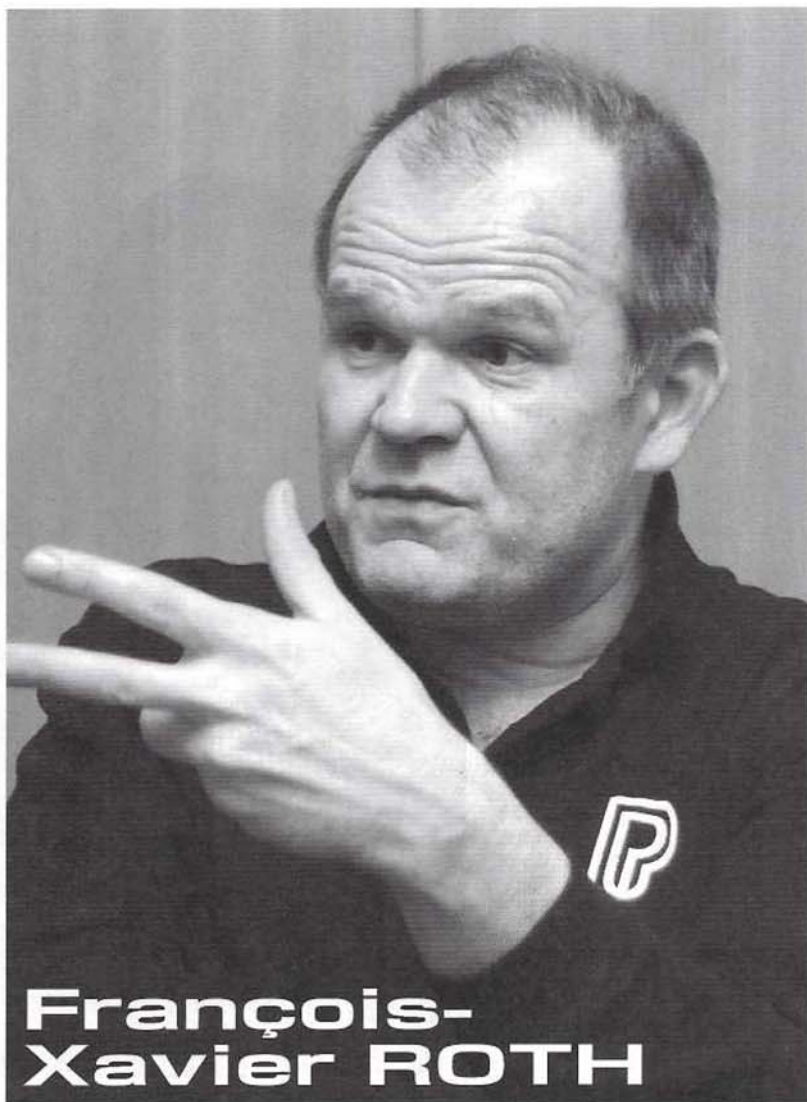
高い柔軟性と優れた音楽性 日本のオーケストラの印象

ロトは、17世紀から現代作品まで、楽器と編成を時代に合わせて使い分け演奏するオーケストラ「レ・シエクル」の創設者として注目され、すでに一部の音楽ファンにはカリスマ的な指揮者だ。そのロトが、日本のオーケストラを相次いで振った感想からまず聞いてみた。

「日本のオーケストラ全体について語ることは、まだ私にはできません。日本には多くのオーケストラがあり、私が指揮したのは東京にある一部のオーケストラだけからです。ですから、日本のオーケストラに対するコメントというより、この一年半の私の個人的感想という意味で話します。ヨーロッパのオーケストラとの比較という視点では、日本のオーケ

ストラの団員は感情の表出、或いは指揮者や音楽に対する表情としてわかる反応が控え目だと感じました。日本人は一般的に他人の前では感情の表出を控えるのだと聞かされたので、それはオーケストラ団員だからということではないのでしよう。が、私のような外国人の指揮者にとってもどのようにコミュニケーション

ションを取るべきか戸惑うことがあります。しかし、音楽に対する知識や経験が豊富なので、リハーサルでうまく問題の解決に向けて、互いの考えを一致させることができれば、良い結果を生み出せるとわかりました。そして、幸いにもこれまで振った3つのオーケストラは経験豊



François-Xavier ROTH

**作曲された当時の楽器を使うからこそ、
見えてくる音楽のテンポ、音量、それに
楽器間のバランスがあるので**

富であり、そのような力を持っていました。それぞれのオーケストラのコンサートマスターは良いリーダーシップを発揮して、各パート、ソロ楽器にも優れた団員がいますね。そうしたオーケストラを指揮できることは喜びです」

3つのオーケストラで振ったレパトリーはかなり多彩です。今回、都響ではベートーヴェン《英雄》やR・シユトラウス《メタモルフォーゼン》に、ストラヴィンスキー《ペトルーシユカ》と《火の鳥》、N響ではベートーヴェンの《第九》、一方、読響ではお国ものフランスのベルリオーズ《幻想交響曲》やブルーレスにサン・サーンズ、加えてベルク、それにハイドン。ロトさんのレパトリーの広さには驚かされます。

「まだ指揮したのは3つのオーケストラだけですが、これだけのレパトリーを演奏できるほど高い柔軟性を備えていることに、私は日本のオーケストラの特徴があると感じました。ハイドンと現代もの、20世紀ものにベートーヴェン、それを一晚にうまく演奏できる。素晴らしいことだと思います」

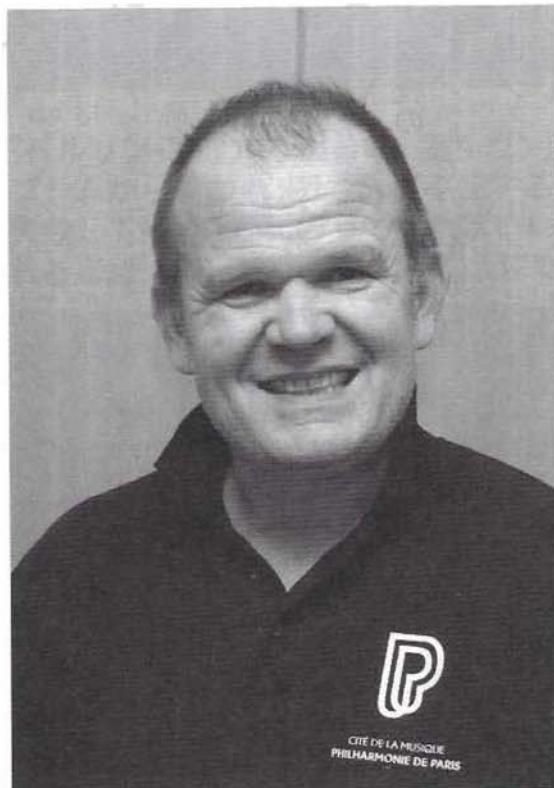
リハーサルを見ていて驚いたのは、意外にも指示が少ないことです。練習時間も時間いっぱいではないのですね。

「コミュニケーションが十分取れていることが重要です。長く練習することが最大の効果をもたらすとは限りません。逆にいえば日本のオーケストラが、それだけ音楽的に優れている証だと思います」

——東京には8つもの常設オーケストラ、さらにプロジェクト・ベースのオーケストラが幾つもあります。

「東京のような大都市に多くのオーケストラがあることは不思議ではありません。ベルリンにも同じくらい多くのオーケストラがありますね。しかし、人口は東京のほうが遥かに多いでしょう。それよりも私が驚いたのは、実に多くのオーケストラのためのホールがあることで

ラ、さらにプロジェクト・ベースのオーケストラが幾つもあります。東京のような大都市に多くのオーケストラがあることは不思議ではありません。ベルリンにも同じくらい多くのオーケストラがありますね。しかし、人口は東京のほうが遥かに多いでしょう。それよりも私が驚いたのは、実に多くのオーケストラのためのホールがあることで



「優れた音楽性をもつ日本のオーケストラを指揮することは喜び」と語ったロト

ラなのでか。

「これは私が学生の時から設立したいと思っていた夢のプロジェクトです。古楽オーケストラは今ではたくさんあります。ある古楽アンサンブルはバロックに特化して世界的な活動をしている。ある古楽オーケストラは、モーツァルトやシューベルト、場合によってはメンデルスゾーンも演奏して、とても素晴らしい。

す。パリも世界有数の大都市ですが、そんなことはありません。他のヨーロッパの大都市と比べても驚くことです。私は日本人の建築物に対する考えを知らないのですが、間違っているかもしれないので、究極を目指したい想いからきているのでしょうか」

レ・シエクルといつオーケストラ

——レ・シエクルとはどんなオーケストラ

或いはモンテペルデイを扱う優れた古楽集団もあります。しかし、私は17世紀、それもドイツだけでなくフランスの音楽を演奏し、さらに18世紀、19世紀と時代が進んでも、その時代ごとに演奏された楽器による音楽集団をつくりたいと考えたのです」

——オリジナル楽器で、そのような幅広い時代を一つの音楽集団で扱うのは、大変なことだと思います。ロトさんはもちろん広い知識や深い知見をお持ちだとは

思いますが、随分苦労されているのではないですか。

「私も、レ・シエクルに参加している音楽家も、その作業の大変さに喜びを感じています。このオーケストラは私が日本で客演しているような常設オーケストラではありません。ある時代のレパトリー、特定の作曲家や作品を演奏するたびに演奏会を開くのです。とはいっても、今ではツアーまでしていますから、毎年それなりの回数、演奏会を開いています。

楽器は時代によって変わっていき、作曲家は作曲した当時の楽器或いは、そこから見通せた楽器の能力を想定して音楽を創造しています。ですから、当時の楽器を無視して作曲家が何を狙って作曲したのかを知るのは本来難しい。演奏するためには相当な下調べや準備が必要です。特定の形の楽器では、その名手を探してきて参加して貰います。そして、オーケストラ全員で作曲当時の楽器を手に、どのように演奏すれば良いか意見を出し合うのです。その作業は大変ですが、楽しいものです。当時の楽器を使うからこそ、見えてくる音楽のテンポ、音量、それに楽器間のバランスがあるのです。そして、レ・シエクルの近い将来のプロジェクトとして、日本訪問を考えているところですが、そのためには多くの人の協力が必要ですが、是非実現したいですね」

—— そうなれば、これは日本の音楽界のニュースになりますね。是非、聴いてみたいですね。